

ー臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ー

現在、眼科では、以下の六施設と共同で実施する下記研究のために、本学で保管する下記の診療情報等を下記代表責任研究機関に対して提供しています。

この共同研究の詳細をお知りになりたい方は、下記の本学での研究内容の問い合わせ担当者もしくは代表責任機関の問い合わせ先まで直接ご連絡ください。尚、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対して利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、同じく本学での問い合わせ担当者もしくは代表責任機関の問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[共同研究課題名] 日本人の萎縮型加齢黄斑変性に関する多施設データ解析

[共同研究の代表責任機関及び研究代表者]

代表責任機関・研究代表者：京都大学医学部附属病院 眼科・教授 辻川明孝

本研究に関する問い合わせ先：京都大学医学部附属病院 眼科・特定病院助教 上田奈央

電話：075-751-3727（応対可能時間：平日9時～16時）、Eメール：naokosp@kuhp.kyoto-u.ac.jp

[利用・提供の対象となる方]

2000年4月から2021年3月までに東京女子医科大学病院 眼科を受診し、萎縮型加齢黄斑変性と診断された方

[利用・提供している診療情報等の項目]

診療情報等：年齢、性別、喫煙歴、既往歴、治療歴、視力、眼圧、眼底所見、光干渉断層計所見、蛍光眼底造影所見、眼底自発蛍光所見、眼軸長、眼内レンズの有無等

[利用・提供の目的]（遺伝子解析研究：無）

加齢黄斑変性（AMD）は本邦で視覚障害の原因の第4位であり、増加傾向にあります。加齢黄斑変性には滲出型と萎縮型があり、滲出型加齢黄斑変性に対しては近年新生血管を抑える抗VEGF剤による治療が広く行われていますが、萎縮型加齢黄斑変性に対しては現在有効な治療法がありません。加齢黄斑変性には人種差があることが知られており、萎縮型加齢黄斑変性は欧米人と比較し日本人では少なく、日本人を含めアジア人における萎縮型加齢黄斑変性に関する報告は限られています。

本研究では、多施設での実臨床におけるデータを解析し、日本人における萎縮型加齢黄斑変性の特徴および自然経過、予後につき検討します。今後の本邦の萎縮型加齢黄斑変性治療を考える上で基盤となるデータを示すことを目的とした共同研究です。

[主な共同研究機関及び研究責任者]

1. 京都大学医学部附属病院 眼科・教授 辻川 明孝
2. 関西医科大学医学部 眼科・教授 高橋 寛二
3. 横浜市立大学大学院医学研究科 視覚再生外科学・准教授 井上麻衣子
4. 琉球大学大学院医学研究科 眼科・教授 古泉 英貴
5. 大阪大学大学院医学研究科 視覚情報制御学・特任教授 川崎 良

[利用・提供期間および主な提供方法]

期間：倫理審査委員会承認後より3年間（予定）

提供方法：直接手渡し 郵送・宅配 電子的配信 その他（ ）

[この研究での診療情報等の取扱い]

倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、どなたのものなのかわからないように安全管理措置（匿名化）をしたうえで取り扱っています。

[東京女子医科大学における研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者：東京女子医科大学 眼科教授・講座主任 飯田 知弘

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 特任助教 丸子 留佳

電話：03-3353-8111（内線21321）（応対可能時間：平日9時～16時）、ファックス：03-5269-7617